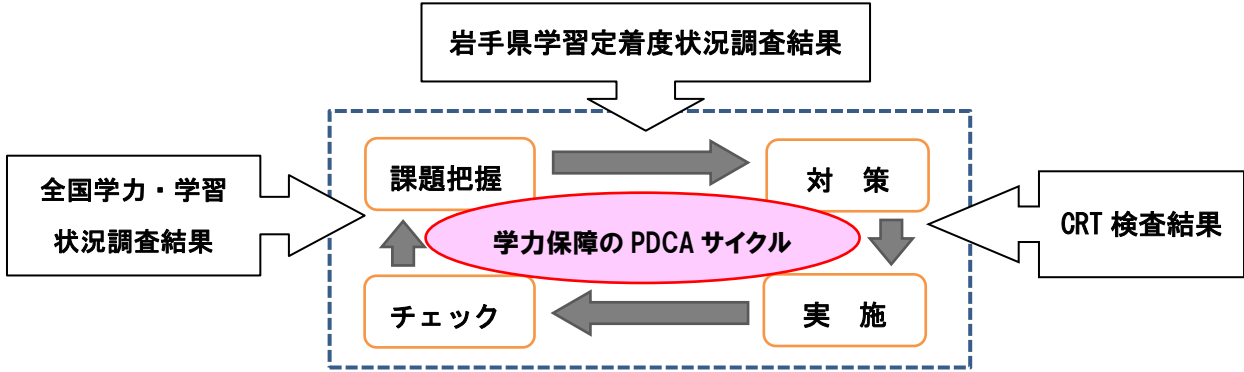


平成27年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県北	学校名	九戸村立伊保内小学校	TEL	0195(42)2201
------	----	-----	------------	-----	--------------

課題克服に向けての全校体制による「学力保障 PDCA サイクル」の確立

【ねらい】 全校体制による「学力保障のPCDA サイクル」の組織的活性化



各種調査結果を分析した本校の課題についての対策を立て、それに基づいた取組を実施し、その結果どうだったかを明らかにするチェックを行うという本校の「学力保障のPDCA サイクル」を確立する。このサイクルは、課題を克服・学力向上を目指すために、**各種調査・検査の結果について、学校全体で組織的に取組を進めていく**ものである。

【具体的な取組】

1 各種調査結果の分析と課題把握

- 平成26年度県学調と平成27年度全国学調A問題の県平均-5ポイント以下の項目の系統性を洗い出し対策を立てる。
- B問題の誤答分析の傾向から、対策を立てる。(学力向上研修会)
- 得点の分布状況(ヒストグラム)からわかる課題に対する対策を立てる。
【個人の得点レベルアップの対策】・A問題は高得点でも、B問題が平均以下になっている児童の指導
・県学調の記述式問題で誤答または無解答児童の指導
- 質問紙調査結果と各教科正答率との相関関係からみえる課題をつかみ、対策を立てる。
- 分析結果や課題、対策等について、全教員で共有する。

ア 5月の学力向上研修会

- 「分析系統表」の項目の確認。
- 課題に係る単元等を確認し、教科書・指導書への付箋の貼付と問題の添付。

平成26年度岩手県学習定着度状況調査結果及び平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析系統表

学年	1- (2)	1- (1)	1- (3)	1- (5)	3- (1)	3- (1)	
本校の重点領域	数と計算 (小数の加法) 0.7は0.01を何割増した数になりますか。 6.8 - 0%	数と計算 (小数加法) 4年生 5.09 + 8.2 7.6% (-4.3)	数と計算 (小数加法) 5年生 3.8 × 6.5 7.2% (-4.3)	数と計算 (分数減法) 5年生 2.8 - 1.5 1.7 - 1.1 8.4% (-4.3) 2- (3) 数と計算 (分数減法) 5年生 5. - 1/4 8.0%	数と計算 (除法) 4年生 3位数÷2位数の計算で、商が2桁に なるときのわる数を 求める。 2.8 1.4 6 6.0% (-7.2)	数と測定 (時間と時間) 2年生 午後3時10分から 2.5分経ると 6.8%	数と測定 (時間と時間) 2年生 午後3時10分から 2.5分経ると 6.8%
1年生	おおいかず 2位数の位取りの 繰り算の繰り 10よりおおいかず 20までの数の構成	たしざん 0 + 2 5 + 8	ピルをつくらう 12個のタイルの 敷き詰め	ひき算	ピルをつくらう 12個のタイルの 敷き詰め	なんじ、なんじはん 読み方 なんじはんぶん 読み方	
2年生	3桁までの数の構成 3位数の位取りの繰 り算の繰り 4けたの数の構成 4位数の位取りの繰 り算の繰り	たし算のひっ算 (空位のあるたし算)	かけ算 (1, 2) 九九 2桁×1桁	分数 (簡単な分数)	かけ算 (ことばの式)	時と時刻 時刻と時刻の差 1時間=60分	
3年生	小数・小数の意味の表 し方 小数の位取り 大きい数のしくみ 繰り算の繰り	小数 (小数第1位の加 法)	かけ算のひっ算 (2) 2桁×2桁 or 3桁	分数 (分数の意味 被減数が1以下)	かけ算 (ことばの式)	【発展】 時と時刻の差 時刻と時刻の差	
4年生	小数のしくみ 小数の位取りの原 理 小数のたし算とひき算 (空位のとらえ方)	小数のしくみ (9の十倍) 3桁×2桁 ずれている	小数のかけ算とわり 算 整数×整数 整数×小数	分数 同分母の加減 異分母+異分母 帯分数+異分母	わり算の意味 (1, 2) ことばの式		
5年生	【発展】 整数と小数 + 整数としての整数 ・ 小数	【発展】 整数と小数 + 整数としての整数 ・ 小数	小数のかけ算 小数×小数	分数のたし算とひき算 異分母の加減 帯分数+異分母 帯分数+整数	【発展】 (小数の意味と計算)	【発展】 分数のたし算とひき算 時間の分数表示	
6年生					【発展】 (分数の意味と計算)	【発展】 通き	
中学生	小数の加法 (空位、- 6.4)	整数、分数、小数の混 合計算 (-17.7)		同分母の加法 (-5.4)			
対 策	【単元の指導】 ①算式の意図をつける。位をそろえる。 ②算式の用語を用いて説明する。(単元のはじめの所なので、パワーアップタイムなどで問題の形式に慣れたり、図形の観察・説明をさせたりする。 ③算式の意図を付ける。小数点の繰り算の仕方。2位数×2位数。 ④算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑤算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑥算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑦算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑧算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑨算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) ⑩算式の意図を付ける。繰り算の仕方を押さえる。(見落としがない) 【算式学習・習熟】 ・加法・減法・除法を混ぜた時に、小数点の繰り算を正しくできるように練習する。 ・④のようないろいろな問題に触れる。応用問題をとく。						

落ちていた内容

該当内容に関わる
学年の単元

具体的な対策と
手立て

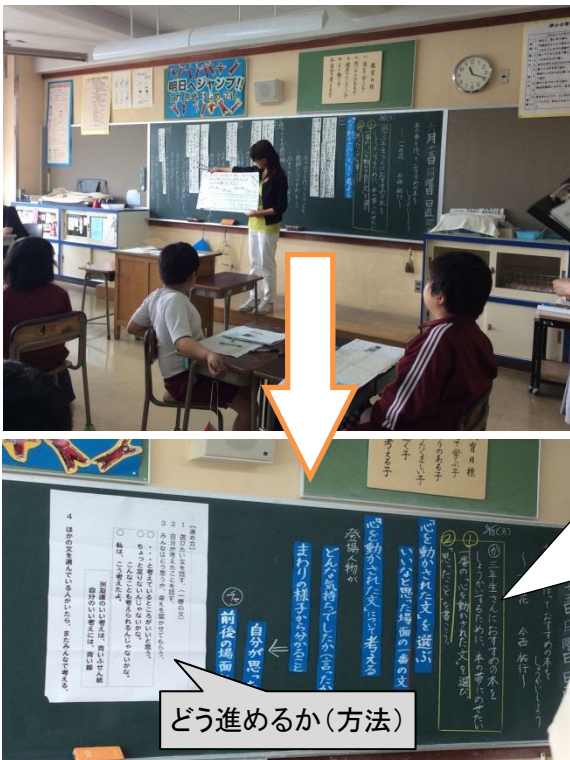
- イ 8月の学力向上研修会
 - ① 全国学調 B問題の結果報告。
 - ② 全国学調 B問題の誤答分析の方法の演習。
(担当指導主事から指導助言)
- ウ 9月～10月の計画的な学力向上の取組
(授業、パワーアップタイム、家庭学習、個別指導)
 - ① 「平成26年度岩手県学習定着度状況調査結果の分析・平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析系統表」(以下、「分析系統表」と記す)に基づいた指導。
 - ② 県学調、CRT検査の過去問題への取組。



問題と解答を付き合わせ、全教員で誤答分析をする。

2 各種調査結果分析に基づいた学力保障の取組

- (1) 授業改善の取組
 - ア 今年度の「わかる授業づくり 4つのポイント」を反映した授業改善を行う。



- ① 見通し
単元の学習計画の中に課題解決場面を提示し、児童に見通しを持たせる。
- ② 明確な課題
児童自身が本時の学習内容を理解して進められるように、明確な課題を提示をする。
- ③ 思考・表現できる場
既習事項を活用しながら、自分の考えをもち、表現できる場の設定をする。
- ④ 振り返り
学習課題(内容)に対応した振り返りを書かせる。

「明確な課題」が「主体的学び」を生み出す

…おすすめの本をしようかいるために、本の帯にのせたい

①一番「心に残った文」を選び、 何のために(目的)

②思ったことを書こう 何をするか(内容)

何のために、どんな方法で、何をするのか明確であれば、児童は主体的に思考し、表現する。

- イ 「分析系統表」に基づいた重点指導の取組
「分析系統表」で取り上げた指導重点単元や指導事項については、特に力を入れて指導を行う。併せてパワーアップタイム、家庭学習でも補充・定着のための学習を行わせる。
- ウ 「主体的な学び」につなげるための「わかる授業づくり」

【第5学年算数の実践例】

既習事項の確認

課題把握

まとめ

問題 五角形や六角形の角の大きさは?

見通し 対角線を引いて分けよう
1本 → 五角形のとき
2本 → 五角形のとき

自力解決

適用問題

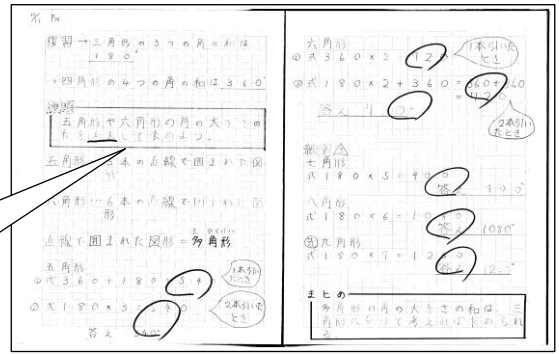
まとめ 多角形の角の大きさの和は、三角形に分けて考えれば求められる。

多角形	3角形	4角形	5角形	6角形	7角形	8角形	9角形
角の大きさの和	180°	360°	540°	720°	900°	1080°	1260°

練習
△七角形 $180 \times 5 = 900$ 答え 900°
八角形 $180 \times 6 = 1080$ 答え 1080°
⑧九角形 $180 \times 7 = 1260$ 答え 1260°

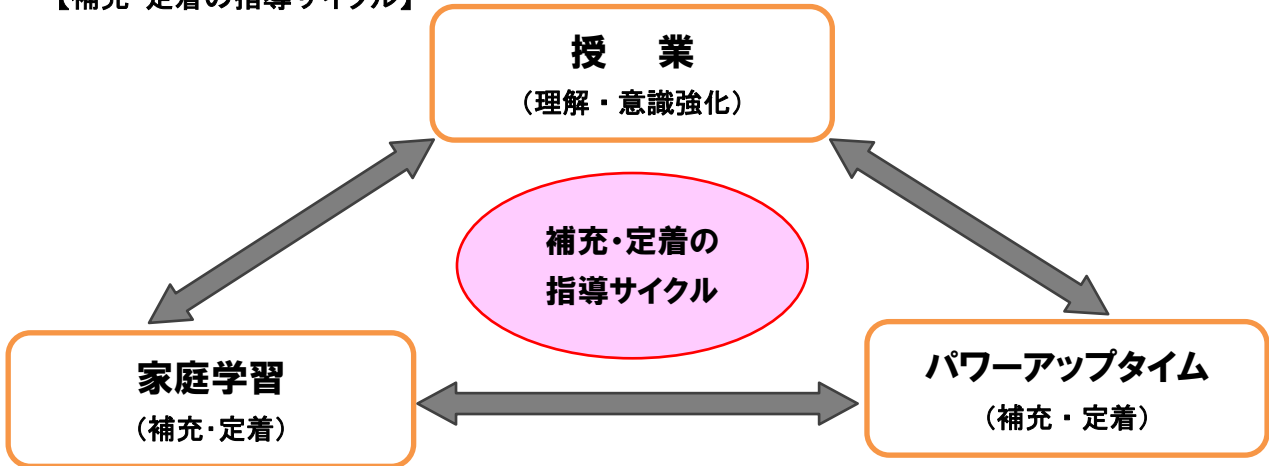
- ① 「明確な課題の提示」をすることにより、児童が自分で「何をどのように学習するのか」自覚できるような「主体的な学び」につなげる。
- ② 「課題内容」の吟味と「振り返り」との整合性を毎時間、黒板とノート記述と照らし合わせ確認する。

板書に基づいて、「既習事項の確認」から「まとめ」までの学習内容が、見開きページでまとめられている児童のノート



(2) 補充・定着指導

【補充・定着の指導サイクル】



ア パワーアップタイム

【具体例】4年生のある1週間の取組内容

8:15~8:30	月	火	水	木	金
6月8日~12日 4年生 空位のあるわり算	レディ ネス 問題	空位のある わり算	視 写	空位のある わり算	商の立 つ位置 を問う わり算

九戸村全体での小中高連携事業として「書く力」「聞く力」の育成に向けて、毎週水曜日に「視写・聴写」に取り組んでいる。

落ち込みの見られる指導事項を集中的に取り上げ、1週間継続して取り組ませる。

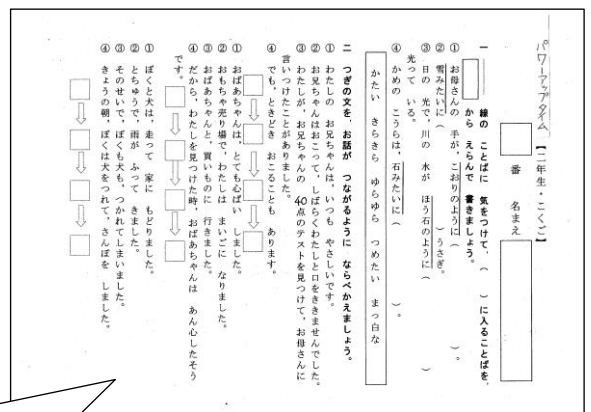
つまづいている問題について、児童も指導者もチェックし、個別指導や家庭学習で完全に理解するまで繰り返す。

イ 県学調の過去の問題への取組

- ① パワーアップタイムや授業、放課後を利用して、課題となった過去の問題に取り組む。
- ② 正答率の低い記述式問題での無答を減らすよう、答えの出し方だけでなく考え方を説明し、問題の条件に合わせた解答の仕方について具体的に指導した。
- ③ 補充学習や家庭学習で児童が独力で取り組めるよう、児童と共に相談し、助言や励ましを行った。

ウ 補充・個別指導

個別の支援が必要な児童への指導や5・6年生の算数授業では、T2によるサポートを行った。



「分析系統表」で取り上げた重点指導事項について、該当学年での学習内容を踏まえて作成したパワーアップタイム用の学習プリント

(3) 家庭学習

ア 家庭学習の実効性を高める

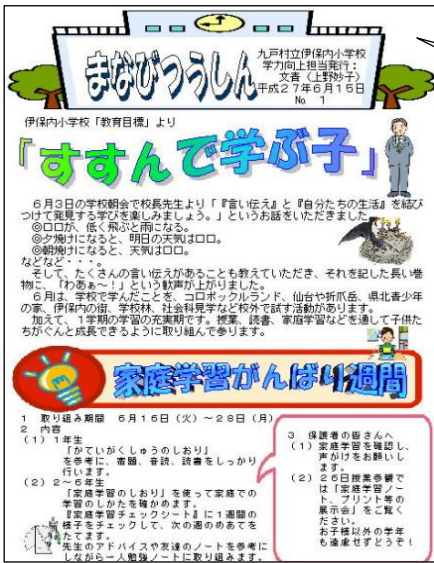
- ① 4月に「家庭学習の手引き」の学習時間や内容を低・中・高と系統性を踏まえ見直した。
- ② 6月、11月の年2回「家庭学習がんばり週間」でよりよい習慣形成を図った。

イ モデルとなる「一人勉強ノート」の提示（児童同士、保護者へ）

- ① 4月、11月授業参観時
- ② 6月、11月家庭学習がんばり週間

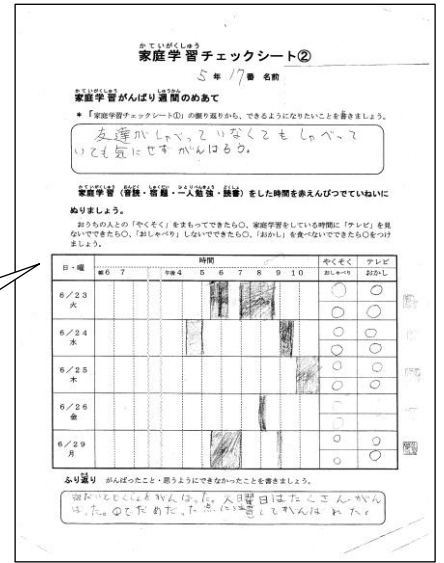
ウ 「家庭学習がんばり週間」の取組

- ① 全学年児童が同じ記録カードで6月・11月に実施する。
- ② 1週目で児童の現状把握をし、学団の目標（授業時間、実施時刻、内容、読書等）、ノーメディア、黙勉、無飲食を意識して家庭学習に取り組むように促す。
- ③ 2週目は、1週目の反省をもとに新たに目標を設定して取り組む。
- ④ 学力向上通信「まなびつうしん」で、協力のお願いや各学年の結果をお知らせする。



「まなびつうしん」を発行して、「家庭学習がんばり週間」への協力を依頼する。

「家庭学習チェックシート」に「めあて」「取組状況」「自己評価」「振り返り」を記載させ、意識化を図る。



【成果】

ア 該当学年だけでなく、全教員の当事者意識が醸成されたこと

「平成26年度岩手県学習定着度状況調査、平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果を受け、該当学年の担任や学力向上担当だけでなく、全教員による誤答分析等を行い、「分析系統表」を作成することができた。そして、その「分析系統表」をもとに重点的な指導を図り、授業改善、補充・定着指導を押し進めることができた。

イ 「学力保障のPDCAサイクル」と「補充・定着の指導サイクル」の両輪が確立したこと

諸調査が終了した後、結果分析に取り組み、「課題把握」→「対策」→「実施」→「チェック」→「課題把握」という「学力保障のPDCAサイクル」を確立させ、「分析系統表」に書き込みながら、授業改善等に取り組んだ。また、「分析系統表」から重点指導事項を明らかにして、「授業」→「パワーアップタイム」→「家庭学習」→「授業」という「補充・定着の指導サイクル」が機能し、繰り返し指導の体制が確立した。

この2つのサイクルがうまく機能することにより、学校としての学力保障・学力向上に向けての体制が確立したことが最大の成果である。

